

参加呼びかけ 第1次呼びかけ人一覧

●ハンセン病市民学会／青年・学生部会への参加を呼びかけます

「ハンセン病」のことを初めて知ったとき、事実そのものから受けた衝撃と「なぜ自分はこのことを知らなかったのだろうか」との思いにショックを受けませんでしたか？

その思いはみんな共通しています。この問題を知り、差別・偏見が未だ解決していないことを知ったとき、「自分に何ができるのか？」と悩みました。私達は短いながらも、それぞれの立場や思いからハンセン病問題に関わってきました。

しかし、「ハンセン病問題の解決のために何かしたい」「ハンセン病問題を深めたい」と思いながらも身近に「きっかけ」がなかったためにまだ動いていない仲間はたくさんいると思います。「ハンセン病」について知らないだけで、知れば動き出す仲間もたくさんいると思います。

ハンセン病市民学会が発足して1年。ようやく若い世代が全国でつながって情報交換していこうという取り組みがスタートしました。みなさんも「青年・学生部会」に繋（つな）がって、一緒に考えませんか？ この問題の早期解決のために、そして私達の明るい豊かな未来をつくるために。

●ハンセン病市民学会／青年・学生部会呼びかけ人一覧（第一次）

- 北海道：由井 久志（ハンセン病問題を考える会、市民学会運営委員）
- 北海道：安藤 路恵（ハンセン病問題を考える会代表）
- 新潟：広川 慎一（ハンセン病回復者と故郷・新潟を結ぶ会、新潟大学学生）
- 群馬：森 隆子（ハンセン病裁判を支援しともに生きる会、病院職員）
- 群馬：坂田 朝輝（ハンセン病裁判を支援しともに生きる会、病院職員）
- 長野：石原 剛志（長野大学社会福祉学部教員）
- 富山：前田 祥子（ハンセン病問題ふるさとネットワーク富山、富山国際大学学生）
- 首都圏：佐藤 健太（ハンセン病図書館友の会、皓星社営業企画部）
- 首都圏：西尾 雄志（早稲田大学教員）
- 首都圏：黒田 暁子（恵泉女学園大学大学院生）
- 首都圏：笠松 郁子（ハンセン病図書館友の会、恵泉女学園大学学生）
- 首都圏：宮崎 学（FIWC関東委員会、首都大学学生）
- 静岡：川窪進太郎（静岡学生人権サークル「Change Your Angle」代表、静岡大学学生）
- 愛知：小堀智恵子（ハンセン病元患者さん・家族と共に歩もう あいち太陽の会代表）
- 岡山：島津ゆきえ（人の大切さを知る会（仮称）準備メンバー）
- 沖縄：宜寿次政江（沖縄愛楽園証言集編集事務局）
- 沖縄：大城 和也（沖縄愛楽園証言集編集事務局）
- 沖縄：吉川 由紀（沖縄愛楽園証言集編集事務局）
- 沖縄：辻 央（沖縄愛楽園証言集編集事務局）
- 沖縄：森川 恭剛（沖縄愛楽園証言集編集事務局）

以上20名

※一緒に呼びかけてくださる方を募っています。ご連絡ください。

ハンセン病市民学会 「青年・学生部会」に 参加してください！

青年・学生のみなさん！

ハンセン病市民学会は今年5月に開催する第2回富山総会において「青年・学生部会」を設立します。多くのみなさんの参加（登録）をお願いいたします。

設立の趣旨

ハンセン病問題の世代継承の担い手を育成し、若者のハンセン病問題への取り組みを支援し、交流学习をすすめます。若者自身が市民学会の主体としてハンセン病への問題意識を交流し深め連帯する場（ネットワーク）をつくることをめざします。

【もう少し詳しく解説】

・各地でハンセン病問題にかかわる青年学生は、絶対数は多くないかもしれませんが確かな問題意識を持ち、模索しています。これまで、「どういう青年が」「どこで」「どんな問題意識をもち」「どんな活動をしているのか」について情報交流の場がなかった（少なかった）ため、各個人・グループの取り組みはそれぞれが自己完結している場合が多く、多彩な発展も相互交流・「励ましあい」もありませんでした。

・しかしハンセン病市民学会の発足、「ハンセン病問題を知りたい青年交流会」の開催（2005年8月、草津）、ソロクト楽生院訴訟での学生の取り組みなどの動きが広がり、これらに関わった若者のなかにはこれらの動きをネットワーク化する要望も高まっています。

・特に首都圏の学生グループは、大学の枠を超えた連携の要求が高まっており、ハンセン病市民学会への期待も広がっています。この期待にぜひ応えたいと思います。

設立後の活動イメージ

- ・日常的にはMLやブログ等を活用してつながりあいます。
- ・市民学会HPに開設される「部会」HPを活用します。
- ・年1-2回、交流集会やワークキャンプ等の会合を開催します。
- ・ハンセン病をテーマに卒論を書いている学生の合同発表会の開催などを企画します。
- ・関心あるテーマ（人権、文学、歴史、国内、海外等）ごとの交流会などを企画します。
- ・その他、創意工夫あふれる取り組みをすすめます。
- ・幹事、代表幹事等、軸になるメンバーを募り世話役活動をお願いします。

ハンセン病市民学会「青年・学生部会」に登録します

- お名前（ _____ ）
- 所属団体（ _____ ） → あればお書きください
- 職業学校（ _____ ）
- ご住所（ _____ ）
- 電話番号（ _____ ）
- メールアドレス（ _____ ） → メールリングリスト登録アドになります

設立までのスケジュール

- 2月4日 準備会の立ち上げ：第1回準備会（東京・品川）
- 2月上旬 HP及びメールニュースで呼びかけ
- 3月下旬 市民学会ニュース第2号で参加呼びかけ
 - 3月前半頃：第2回準備会（東京）予定
- 5月 富山総会で設立総会、活動方針等決定

【登録申込／問い合わせ】

- 青年・学生部会設立準備会事務局
由井久志（市民学会運営委員）
電話 090-8372-3286
hansen-asahikawa@mbj.nifty.com
- ハンセン病市民学会事務局
- または最寄の共同代表・運営委員

「青年へのアドバイザー」制度を創設します！

- ・ハンセン病問題に接近する若者の多くは絶対隔離政策への疑問や差別偏見を「おかしい」と思う正義感に燃えつつも、現代日本社会の過度な競争社会のもと人間関係が苦手だったり、引っ込み思案だったりします。また、ハンセン病療養所は誤解を怖れずに表現すればある意味「特殊な社会」になっており、例えば入所者とながりがなければ若者が訪ねづらい（訪ねられないわけではないが、実際上訪ねづらい）状況もあります。そんな若者の意欲を激励するために、ベテランの支援者や受け入れ経験豊富な回復者からなる「青年へのアドバイザー」を募り、HPで紹介し、相談にのっていただきます。
- ・ハンセン病問題そのものが世界の医療医学の到達を省みなかったことに一因を生じた事から考えても、次世代の青年たちが最新の科学的見地にたち生命観・人間観を学ぶ機会を得る事は欠かせません。医学生物学はじめ社会科学もふくめてハンセン病にかかわる最新の科学の到達を伝えていく専門家の方にも自薦他薦ふくめてご登録いただき、各地で青年むけ講座の講師になっていただけるよう紹介します。

組織のあり方／部会構成

- ・組織のあり方については宗教部会（市民学会HP参照）を手本に、全国的なネットワークのほか、条件に応じて地域的なグループをつくり日常的な活動をします。
- ・現在、首都圏の学生を中心としたグループが活発なので、部会設立に先行して準備組織をつくり活動をすすめます。また新入生を迎え入れることを考えれば2月後半～3月にかけて首都圏での具体的な動きを相談していきます。
- ・この他、地域での具体的な動きや要望があれば、エリア組織を樹立します。

【部会構成】

- ・10-30代のハンセン病市民学会員
 - ・青年へのアドバイザー（年齢制限等無し）
- 市民学会未入会者の「青年学生部会」への参加は市民学会への入会を併せてお願いします。市民学会への入会は、振込用紙で会費を送金した時点になります。その際、通信欄に、「青年学生部会参加」と記載して下さい。